



## debug コマンド : j ~ q

---

- [debug l2age](#) (2 ページ)
- [debug mac](#) (3 ページ)
- [debug mdns all](#) (4 ページ)
- [debug mdns detail](#) (5 ページ)
- [debug mdns error](#) (6 ページ)
- [debug mdns message](#) (7 ページ)
- [debug mdns ha](#) (8 ページ)
- [debug memory](#) (9 ページ)
- [debug mesh security](#) (10 ページ)
- [debug mesh convergence](#) (11 ページ)
- [debug mobility](#) (12 ページ)
- [debug nac](#) (14 ページ)
- [debug nmsp](#) (15 ページ)
- [debug ntp](#) (16 ページ)
- [debug packet error](#) (17 ページ)
- [debug packet logging](#) (18 ページ)
- [debug pem](#) (21 ページ)
- [debug pm](#) (22 ページ)
- [debug poe](#) (24 ページ)
- [debug policy](#) (25 ページ)
- [debug profiling](#) (26 ページ)

## debug l2age

レイヤ 2 Age タイムアウト メッセージのデバッグを設定するには、**debug l2age** コマンドを使用します。

**debug l2age** {**enable** | **disable**}

### 構文の説明

**enable**

Layer2 Age 設定のデバッグを有効にします。

**disable**

Layer2 Age 設定のデバッグを無効にします。

### コマンドデフォルト

なし

### コマンド履歴

リリース 変更内容  
ス

7.6 このコマンドは、リリース 7.6 以前のリリースで導入されました。

次に、Layer2 Age 設定のデバッグを有効にする例を示します。

```
(Cisco Controller) > debug l2age enable
```

### 関連コマンド

**debug disable-all**

# debug mac

クライアント MAC アドレスのデバッグを設定するには、**debug mac** コマンドを使用します。

**debug mac** { **disable** | **addr** *MAC* }

構文の説明		
	<b>disable</b>	MAC アドレスを使用してクライアントのデバッグを無効にします。
	<b>addr</b>	MAC アドレスを使用してクライアントのデバッグを設定します。
	<i>MAC</i>	クライアントの MAC アドレス。

コマンド デフォルト なし

コマンド履歴	リリース	変更内容
	7.6	このコマンドは、リリース 7.6 以前のリリースで導入されました。

コマンド履歴	リリース	変更内容
	8.3	このコマンドが導入されました。

次に、MAC アドレスを使用してクライアントのデバッグを設定する例を示します。

```
(Cisco Controller) > debug mac addr 00.0c.41.07.33.a6
```

関連コマンド **debug disable-all**

# debug mdns all

すべてのマルチキャスト DNS (mDNS) メッセージ、詳細、およびエラーをデバッグするには、**debug mdns all** コマンドを使用します。

**debug mdns all {enable | disable}**

## 構文の説明

**enable** すべての mDNS メッセージ、詳細、エラーのデバッグを有効にします。

**disable** すべての mDNS メッセージ、詳細、エラーのデバッグを無効にします。

## コマンド デフォルト

デフォルトでは、すべての mDNS メッセージ、詳細、エラーのデバッグは無効です。

## コマンド履歴

リリー 変更内容  
ス

7.4 このコマンドが導入されました。

次に、すべての mDNS メッセージ、詳細、およびエラーのデバッグを有効にする例を示します。

```
(Cisco Controller) > debug mdns all enable
```

## 関連コマンド

**config mdns profile**  
**config mdns query interval**  
**config mdns service**  
**config mdns snooping**  
**config interface mdns-profile**  
**config interface group mdns-profile**  
**config wlan mdns**  
**show mdns profile**  
**show mnds service**  
**clear mdns service-database**  
**debug mdns error**  
**debug mdns detail**

## debug mdns detail

マルチキャスト DNS (mDNS) 詳細をデバッグするには、**debug mdns detail** コマンドを使用します。

**debug mdns detail** { **enable** | **disable** }

### 構文の説明

**enable** mDNS 詳細のデバッグを有効にします。

**disable** mDNS 詳細のデバッグを無効にします。

### コマンドデフォルト

このコマンドは、デフォルトでディセーブルになっています。

### コマンド履歴

リリース 変更内容  
ス

7.4 このコマンドが導入されました。

次に、mDNS 詳細のデバッグを有効にする例を示します。

```
(Cisco Controller) > debug mdns detail enable
```

### 関連コマンド

**config mdns profile**  
**config mdns query interval**  
**config mdns service**  
**config mdns snooping**  
**config interface mdns-profile**  
**config interface group mdns-profile**  
**config wlan mdns**  
**show mdns profile**  
**show mnds service**  
**clear mdns service-database**  
**debug mdns all**  
**debug mdns error**

## debug mdns error

マルチキャスト DNS (mDNS) エラーをデバッグするには、**debug mdns error** コマンドを使用します。

**debug mdns error** {enable | disable}

### 構文の説明

**enable** mDNS エラーのデバッグを有効にします。

**disable** mDNS エラーのデバッグを無効にします。

### コマンドデフォルト

このコマンドは、デフォルトでディセーブルになっています。

### コマンド履歴

リリー 変更内容  
ス

7.4 このコマンドが導入されました。

次に、mDNS エラーのデバッグを有効にする例を示します。

```
(Cisco Controller) > debug mdns error enable
```

### 関連コマンド

**config mdns profile**  
**config mdns query interval**  
**config mdns service**  
**config mdns snooping**  
**config interface mdns-profile**  
**config interface group mdns-profile**  
**config wlan mdns**  
**show mdns profile**  
**show mnds service**  
**clear mdns service-database**  
**debug mdns all**  
**debug mdns detail**  
**debug mdns message**

## debug mdns message

マルチキャスト DNS (mDNS) メッセージをデバッグするには、**debug mdns message** コマンドを使用します。

**debug mdns message {enable | disable}**

構文の説明	<b>enable</b> mDNS メッセージのデバッグを有効にします。
	<b>disable</b> mDNS メッセージのデバッグを無効にします。
コマンドデフォルト	ディセーブル
コマンド履歴	リリース 変更内容 7.4 このコマンドが導入されました。

次に、mDNS メッセージのデバッグを有効にする例を示します。

```
(Cisco Controller) > debug mdns message enable
```

関連コマンド	<b>config mdns profile</b> <b>config mdns query interval</b> <b>config mdns service</b> <b>config mdns snooping</b> <b>config interface mdns-profile</b> <b>config interface group mdns-profile</b> <b>config wlan mdns</b> <b>show mdns profile</b> <b>show mnds service</b> <b>clear mdns service-database</b> <b>debug mdns all</b> <b>debug mdns error</b> <b>debug mdns detail</b>
--------	---

## debug mdns ha

すべてのマルチキャストドメインネームシステム (mDNS) 高可用性 (HA) メッセージをデバッグするには、**debug mdns ha** コマンドを使用します。

**debug mdns ha** {**enable** | **disable**}

### 構文の説明

**enable** すべての mDNS HA メッセージのデバッグを有効にします。

**disable** すべての mDNS HA メッセージのデバッグを無効にします。

### コマンドデフォルト

このコマンドは、デフォルトでディセーブルになっています。

### コマンド履歴

リリー 変更内容  
ス

7.5 このコマンドが導入されました。

### 使用上のガイドライン

このコマンドは、**debug mdns all** コマンドが有効になると自動的に有効になります。

次に、すべての mDNS HA メッセージのデバッグを有効にする例を示します。

```
(Cisco Controller) > debug mdns ha enable
```



# debug memory

Cisco WLC のメモリ割り当て時のエラーまたはイベントのデバッグを有効または無効にするには、**debug memory** コマンドを使用します。

**debug memory {errors | events} {enable | disable}**

構文の説明	errors	メモリ リーク エラーのデバッグを設定します。
	events	メモリ リーク イベントのデバッグを設定します。
	enable	メモリ リーク イベントのデバッグを有効にします。
	disable	メモリ リーク イベントのデバッグを無効にします。

コマンド デフォルト      デフォルトでは、Cisco WLC のメモリ割り当て時のエラーまたはイベントのデバッグは無効です。

コマンド履歴	リリース	変更内容
	7.6	このコマンドは、リリース 7.6 以前のリリースで導入されました。

コマンド履歴	リリース	変更内容
	8.3	このコマンドが導入されました。

次に、メモリ リーク イベントのデバッグを有効にする例を示します。

```
(Cisco Controller) > debug memory events enable
```

関連コマンド	config memory monitor errors
	show memory monitor
	config memory monitor leaks

## debug mesh security

メッシュセキュリティ問題のデバッグを設定するには、**debug mesh security** コマンドを使用します。

**debug mesh security** {all | events | errors} {enable | disable}

構文の説明	all	events	errors	enable	disable
	すべてのメッシュセキュリティメッセージのデバッグを設定します。	メッシュセキュリティイベントメッセージのデバッグを設定します。	メッシュセキュリティエラーメッセージのデバッグを設定します。	メッシュセキュリティエラーメッセージのデバッグを有効にします。	メッシュセキュリティエラーメッセージのデバッグを無効にします。

コマンド デフォルト なし

コマンド履歴	リリース	変更内容
	7.6	このコマンドは、リリース 7.6 以前のリリースで導入されました。

次に、メッシュセキュリティエラーメッセージのデバッグを有効にする例を示します。

```
(Cisco Controller) >debug mesh security errors enable
```

## debug mesh convergence

メッシュ コンバージェンス問題のデバッグを設定するには、**debug mesh convergence** コマンドを使用します。

### debug mesh convergence

---

**構文の説明**

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

---

**コマンドデフォルト**

なし

---

**コマンド履歴**

リリース	変更内容
8.0	このコマンドが導入されました。

次に、メッシュ コンバージェンス エラー メッセージのデバッグを有効にする例を示します。

```
(Cisco Controller) >debug mesh convergence  
mesh convergence debugging is on
```

# debug mobility

ワイヤレス モビリティのデバッグを設定するには、**debug mobility** コマンドを使用します。

**debug mobility** {**ap-list** | **config** | **directory** | **dtls** | **handoff** | **keep-alive** | **multicast** | **oracle** | **packet** | **peer-ip** *IP-address* | **pmk** | **pmtu-discovery** | **redha**} {**enable** | **disable**}

## 構文の説明

<b>ap-list</b>	ワイヤレスモビリティのアクセスポイントリストのデバッグを設定します。
<b>config</b>	ワイヤレスモビリティ設定のデバッグを設定します。
<b>directory</b>	ワイヤレスモビリティエラーメッセージのデバッグを設定します。
<b>dtls</b>	ワイヤレスモビリティ Datagram Transport Layer Security (DTLS) オプションのデバッグを設定します。
<b>handoff</b>	ワイヤレスモビリティのハンドオフメッセージのデバッグを設定します。
<b>keep-alive</b>	ワイヤレスモビリティ CAPWAP データ DTLS キープアライブ パケットのデバッグを設定します。
<b>multicast</b>	マルチキャストモビリティパケットのデバッグを設定します。
<b>oracle</b>	ワイヤレスモビリティ Oracle オプションのデバッグを開始します。
<b>packet</b>	ワイヤレスモビリティパケットのデバッグを設定します。
<b>peer-ip</b>	着信および発信モビリティメッセージを表示する必要があるモビリティピアのIPアドレスを設定します。
<i>IP-address</i>	着信および発信モビリティメッセージを表示する必要があるモビリティピアのIPアドレス。
<b>pmk</b>	ワイヤレスモビリティペアワイズマスターキー (PMK) のデバッグを設定します。

<b>pmtu-discovery</b>	ワイヤレス モビリティ パス MTU ディスカバリのデバッグを設定します。
<b>redha</b>	マルチキャスト モビリティ 高可用性のデバッグを設定します。
<b>enable</b>	ワイヤレス モビリティ 機能のデバッグを有効にします。
<b>disable</b>	ワイヤレス モビリティ 機能のデバッグを無効にします。

コマンド デフォルト なし

コマンド履歴	リリース	変更内容
	7.6	このコマンドは、リリース 7.6 以前のリリースで導入されました。
	8.0	このコマンドは、IPv4 と IPv6 の両方のアドレス形式をサポートします。

次に、ワイヤレス モビリティ パケットのデバッグを有効にする例を示します。

```
(Cisco Controller) >debug mobility handoff enable
```

## debug nac

ネットワーク アクセス コントロール (NAC) のデバッグを設定するには、**debug nac** コマンドを使用します。

**debug nac {events | packet} {enable | disable}**

構文の説明	<b>events</b>	NAC イベントのデバッグを設定します。
	<b>packet</b>	NAC パケットのデバッグを設定します。
	<b>enable</b>	NAC デバッグを有効にします。
	<b>disable</b>	NAC デバッグを無効にします。
コマンド デフォルト	なし	
コマンド履歴	リリース	変更内容
	7.6	このコマンドは、リリース 7.6 以前のリリースで導入されました。

次に、NAC 設定のデバッグを有効にする例を示します。

```
(Cisco Controller) > debug nac events enable
```

### 関連コマンド

**show nac statistics**  
**show nac summary**  
**config guest-lan nac**  
**config wlan nac**

## debug nmsp

ネットワーク モビリティ サービス プロトコル (NMSP) のデバッグを設定するには、**debug nmsp** コマンドを使用します。

**debug nmsp** {**all** | **connection** | **detail** | **error** | **event** | **message** | **packet**}

構文の説明		
	<b>all</b>	すべての NMSP メッセージのデバッグを設定します。
	<b>connection</b>	NMSP 接続イベントのデバッグを設定します。
	<b>detail</b>	NMSP イベントのデバッグを詳細に設定します。
	<b>error</b>	NMSP エラー メッセージのデバッグを設定します。
	<b>event</b>	NMSP イベントのデバッグを設定します。
	<b>message</b>	NMSP 転送および受信メッセージのデバッグを設定します。
	<b>packet</b>	NMSP パケット イベントのデバッグを設定します。

コマンドデフォルト なし

コマンド履歴

リリース	変更内容
7.6	このコマンドは、リリース 7.6 以前のリリースで導入されました。

コマンド履歴

リリース	変更内容
8.3	このコマンドが導入されました。

次に、NMSP 接続イベントのデバッグを設定する例を示します。

```
(Cisco Controller) > debug nmsp connection
```

関連コマンド

- clear nmsp statistics**
- debug disable-all**
- config nmsp notify-interval measurement**

## debug ntp

ネットワーク タイム プロトコル (NTP) のデバッグを設定するには、**debug ntp** コマンドを使用します。

**debug ntp** {**detail** | **low** | **packet**} {**enable** | **disable**}

構文の説明	detail	low	packet	enable	disable
	詳細な NTP メッセージのデバッグを設定します。	NTP メッセージのデバッグを設定します。	NTP パケットのデバッグを設定します。	NTP デバッグを有効にします。	NTP デバッグを無効にします。

コマンド デフォルト なし

コマンド履歴	リリース	変更内容
	7.6	このコマンドは、リリース 7.6 以前のリリースで導入されました。

コマンド履歴	リリース	変更内容
	8.3	このコマンドが導入されました。

次に、NTP 設定のデバッグを有効にする例を示します。

```
(Cisco Controller) > debug ntp packet enable
```

関連コマンド **debug disable-all**



## debug packet error

Cisco Wireless LAN Controller (WLC) CPU に送信されたパケットのデバッグを設定するには、**debug packet error** コマンドを使用します。

**debug packet error** {**enable** | **disable**}

構文の説明	<b>enable</b> Cisco WLC CPU に送信されたパケットのデバッグを有効にします。
	<b>disable</b> Cisco WLC CPU に送信されたパケットのデバッグを無効にします。
コマンドデフォルト	なし
コマンド履歴	リリース 変更内容
	7.6 このコマンドは、リリース 7.6 以前のリリースで導入されました。

次に、Cisco WLC CPU に送信されたパケットのデバッグを有効にする方法を示します。

```
(Cisco Controller) > debug packet error enable
```

## debug packet logging

Cisco Wireless LAN Controller (WLC) CPU に送信されたパケットのロギングを設定するには、**debug packet logging** コマンドを使用します。

```
debug packet logging {acl | disable | enable {rx | tx | all} packet_count display_size |
format {hex2pcap | text2pcap}}
```

```
debug packet logging acl {clear-all | driver rule_index action npu_encap port | eoip-eth rule_index
action dst src type vlan | eoip-ip rule_index action src dst proto src_port dst_port | eth rule_index
action dst src type vlan | ip rule_index action src dst proto src_port dst_port | lwapp-dot11 rule_index
action dst src bssid type | lwapp-ip rule_index action src dst proto src_port dst_port}
```

### 構文の説明

<b>acl</b>	ルールに従って表示されたパケットをフィルタリングします。
<b>disable</b>	すべてのパケットのロギングを無効にします。
<b>enable</b>	すべてのパケットのロギングを有効にします。
<b>rx</b>	すべての受信パケットを表示します。
<b>tx</b>	すべての送信パケットを表示します。
<b>all</b>	送信パケットと受信パケットの両方を表示します。
<i>packet_count</i>	記録するパケットの最大数です。有効な範囲は1～65535です。デフォルト値は25です。
<i>display_size</i>	パケットを印刷する際の表示バイト数です。デフォルトでは、全パケットが表示されます。
<b>format</b>	デバッグ出力の形式を設定します。
<b>hex2pcap</b>	hex2pcap形式と互換性のある出力形式を設定します。Cisco IOS によって使用される標準の形式では hex2pcap の使用がサポートされており、HTML フロントエンドを使用してデコードできます。
<b>text2pcap</b>	text2pcap形式との互換性のある出力形式を設定します。この形式では、同じコンソールログファイルからパケットのシーケンスをデコードできます。
<b>clear-all</b>	パケットに関連するすべての既存のルールをクリアします。

<b>driver</b>	着信ポートまたはネットワーク プロセッサ ユニット (NPU) カプセル化タイプに基づいてパケットをフィルタ処理します。
<b>rule_index</b>	ルールのインデックス値は 1 ~ 6 (両端の値を含む) です。
<b>action</b>	ルールのアクション。有効な値は <b>permit</b> 、 <b>deny</b> 、または <b>disable</b> です。
<b>npu_encap</b>	パケットのフィルタ処理方法を決める NPU カプセル化タイプです。指定可能な値には、 <i>dhcp</i> 、 <i>dot11-mgmt</i> 、 <i>dot11-probe</i> 、 <i>dot1x</i> 、 <i>eoip-ping</i> 、 <i>iapp</i> 、 <i>ip</i> 、 <i>lwapp</i> 、 <i>multicast</i> 、 <i>orphan-from-sta</i> 、 <i>orphan-to-sta</i> 、 <i>rbcpl</i> 、 <i>wired-guest</i> または <i>any</i> です。
<b>port</b>	パケットの送受信の物理ポートです。
<b>eoip-eth</b>	Ethernet over IP (EoIP) ペイロードのイーサネット II ヘッダーに基づいてパケットをフィルタ処理します。
<b>dst</b>	宛先 MAC アドレスです。
<b>src</b>	送信元 MAC アドレス。
<b>type</b>	IP アドレスなら 0x800、Address Resolution Protocol (ARP) なら 0x806 などの 2 バイトタイプコード。「 <i>ip</i> 」 (0x800 の代わり) や「 <i>arp</i> 」 (0x806 の代わり) などの一般的な文字列値も入力できます。
<b>vlan</b>	2 バイト VLAN 識別子。
<b>eoip-ip</b>	EoIP ペイロードの IP ヘッダーに基づいてパケットをフィルタ処理します。
<b>proto</b>	プロトコル。有効な値は、 <i>ip</i> 、 <i>icmp</i> 、 <i>igmp</i> 、 <i>ggp</i> 、 <i>ipencap</i> 、 <i>st</i> 、 <i>tcp</i> 、 <i>egp</i> 、 <i>pup</i> 、 <i>udp</i> 、 <i>hmp</i> 、 <i>xns-idp</i> 、 <i>rdp</i> 、 <i>iso-tp4</i> 、 <i>xtp</i> 、 <i>ddp</i> 、 <i>idpr-cmtpl</i> 、 <i>rspf</i> 、 <i>vmtp</i> 、 <i>ospf</i> 、 <i>ipip</i> 、および <i>encap</i> です。

<i>src_port</i>	<i>telnet</i> 、23、または <i>any</i> など、ユーザデータグラムプロトコルまたは伝送制御プロトコル (UDP または TCP) の 2 バイト送信元ポート、サポートされる文字列は、 <i>tcpmux</i> 、 <i>echo</i> 、 <i>discard</i> 、 <i>systat</i> 、 <i>daytime</i> 、 <i>netstat</i> 、 <i>qotd</i> 、 <i>msp</i> 、 <i>chargen</i> 、 <i>ftp-data</i> 、 <i>ftp</i> 、 <i>fsp</i> 、 <i>ssh</i> 、 <i>telnet</i> 、 <i>smtp</i> 、 <i>time</i> 、 <i>rlp</i> 、 <i>nameserver</i> 、 <i>whois</i> 、 <i>re-mail-ck</i> 、 <i>domain</i> 、 <i>mtp</i> 、 <i>bootps</i> 、 <i>bootpc</i> 、 <i>tftp</i> 、 <i>gopher</i> 、 <i>rje</i> 、 <i>finger</i> 、 <i>www</i> 、 <i>link</i> 、 <i>kerberos</i> 、 <i>supdup</i> 、 <i>hostnames</i> 、 <i>iso-tsap</i> 、 <i>csnet-ns</i> 、 <i>3com-tsmux</i> 、 <i>rtnet</i> 、 <i>pop-2</i> 、 <i>pop-3</i> 、 <i>sunrpc</i> 、 <i>auth</i> 、 <i>sftp</i> 、 <i>uucp-path</i> 、 <i>nntp</i> 、 <i>ntp</i> 、 <i>netbios-ns</i> 、 <i>netbios-dgm</i> 、 <i>netbios-ssn</i> 、 <i>imap2</i> 、 <i>snmp</i> 、 <i>snmp-trap</i> 、 <i>cmip-man</i> 、 <i>cmip-agent</i> 、 <i>xmcp</i> 、 <i>nextstep</i> 、 <i>bgp</i> 、 <i>prospero</i> 、 <i>irc</i> 、 <i>smux</i> 、 <i>at-rtmp</i> 、 <i>at-nbp</i> 、 <i>at-echo</i> 、 <i>at-zis</i> 、 <i>qmtmp</i> 、 <i>z3950</i> 、 <i>ipx</i> 、 <i>imap3</i> 、 <i>ulistserv</i> 、 <i>https</i> 、 <i>snpp</i> 、 <i>saft</i> 、 <i>npmp-local</i> 、 <i>npmp-gui</i> 、および <i>hmmp-ind</i> です。
<i>dst_port</i>	<i>telnet</i> 、23、または <i>any</i> など、UDP または TCP の 2 バイト宛先ポート。サポートされる文字列は、 <i>src_port</i> と同じです。
<b>eth</b>	イーサネット II ヘッダー内の値に基づいてパケットをフィルタ処理します。
<b>ip</b>	IP ヘッダーの値に基づいてパケットをフィルタ処理します。
<b>lwapp-dot11</b>	Lightweight アクセス ポイント プロトコル (LWAPP) ペイロードの 802.11 ヘッダーに基づいてパケットをフィルタ処理します。
<i>bssid</i>	VLAN の Basic Service Set Identifier (基本サービスセット識別子)。
<b>lwapp-ip</b>	LWAPP ペイロードの IP ヘッダーに基づいてパケットをフィルタ処理します。

コマンド デフォルト なし

コマンド履歴

リリース 変更内容  
ス

7.6 このコマンドは、リリース 7.6 以前のリリースで導入されました。

次に、パケットのロギングをイネーブルにする例を示します。

```
(Cisco Controller) > debug packet logging enable
```

## debug pem

アクセス ポリシー マネージャのデバッグ オプションを設定するには、**debug pem** コマンドを使用します。

**debug pem {events | state} {enable | disable}**

構文の説明	<b>events</b>	ポリシー マネージャ イベントのデバッグを設定します。
	<b>state</b>	ポリシー マネージャのステート マシンのデバッグを設定します。
	<b>enable</b>	アクセス ポリシー マネージャのデバッグを有効にします。
	<b>disable</b>	アクセス ポリシー マネージャのデバッグを無効にします。
コマンド デフォルト	なし	
コマンド履歴	リリース	変更内容
	7.6	このコマンドは、リリース 7.6 以前のリリースで導入されました。
コマンド履歴	リリース	変更内容
	8.3	このコマンドが導入されました。

次に、アクセス ポイント マネージャのデバッグを有効にする例を示します。

```
(Cisco Controller) >debug pem state enable
```

# debug pm

セキュリティ ポリシー マネージャ モジュールのデバッグを設定するには、**debug pm** コマンドを使用します。

```
debug pm {all disable | {config | hwcrypto | ikemsg | init | list | message | pki |
rng | rules | sa-export | sa-import | ssh-l2tp | ssh-appgw | ssh-engine | ssh-int |
ssh-pmgr | ssh-ppp | ssh-tcp} {enable | disable}}
```

## 構文の説明

<b>all disable</b>	ポリシーマネージャモジュールのすべてのデバッグを無効にします。
<b>config</b>	ポリシー マネージャ設定のデバッグを設定します。
<b>hwcrypto</b>	ハードウェアオフロードイベントのデバッグを設定します。
<b>ikemsg</b>	インターネットキー交換 (IKE) メッセージのデバッグを設定します。
<b>init</b>	ポリシー マネージャ初期化イベントのデバッグを設定します。
<b>list</b>	ポリシーマネージャリスト管理のデバッグを設定します。
<b>message</b>	ポリシー マネージャメッセージキューイベントのデバッグを設定します。
<b>pki</b>	公開キー インフラストラクチャ (PKI) 関連イベントのデバッグを設定します。
<b>rng</b>	ランダム番号生成のデバッグを設定します。
<b>rules</b>	レイヤ3 ポリシー イベントのデバッグを設定します。
<b>sa-export</b>	SA エクスポート (モビリティ) のデバッグを設定します。
<b>sa-import</b>	SA インポート (モビリティ) のデバッグを設定します。
<b>ssh-l2tp</b>	ポリシーマネージャレイヤ2トンネリングプロトコル (I2TP) 処理のデバッグを設定します。

<b>ssh-appgw</b>	アプリケーションゲートウェイのデバッグを設定します。
<b>ssh-engine</b>	ポリシーマネージャエンジンのデバッグを設定します。
<b>ssh-int</b>	ポリシーマネージャインターセプタのデバッグを設定します。
<b>ssh-pmgr</b>	ポリシーマネージャのデバッグを設定します。
<b>ssh-ppp</b>	ポリシーマネージャポイントツーポイントプロトコル (PPP) 処理のデバッグを設定します。
<b>ssh-tcp</b>	ポリシーマネージャ TCP 処理のデバッグを設定します。
<b>enable</b>	デバッグをイネーブルにします。
<b>disable</b>	デバッグをディセーブルにします。

コマンドデフォルト なし

コマンド履歴	リリース	変更内容
	7.6	このコマンドは、リリース 7.6 以前のリリースで導入されました。

コマンド履歴	リリース	変更内容
	8.3	このコマンドが導入されました。

次に、PKI 関連イベントのデバッグを設定する例を示します。

```
(Cisco Controller) > debug pm pki enable
```

関連コマンド **debug disable-all**

# debug poe

Power over Ethernet (PoE) のデバッグを設定するには、**debug poe** コマンドを使用します。

**debug poe** {**detail** | **message** | **error**} {**enable** | **disable**}

## 構文の説明

<b>detail</b>	PoE 詳細ログのデバッグを設定します。
<b>error</b>	PoE エラー ログのデバッグを設定します。
<b>message</b>	PoE メッセージのデバッグを設定します。
<b>enable</b>	PoE ログのデバッグを有効にします。
<b>disable</b>	PoE ログのデバッグを無効にします。

## コマンド デフォルト

なし

## コマンド履歴

リリース	変更内容
7.6	このコマンドは、リリース7.6以前のリリースで導入されました。

次に、PoE のデバッグを有効にする例を示します。

```
(Cisco Controller) > debug poe message enable
```

## 関連コマンド

**debug disable-all**



## debug policy

ポリシー設定のデバッグを設定するには、**debug policy** コマンドを使用します。

```
debug policy {errors | events} {enable | disable}
```

構文の説明	<b>errors</b>	ポリシー エラーのデバッグを設定します。
	<b>events</b>	ポリシー イベントのデバッグを設定します。
	<b>enable</b>	ポリシー イベントのデバッグを有効にします。
	<b>disable</b>	ポリシー イベントのデバッグを無効にします。
コマンド デフォルト	なし	
コマンド履歴	リリース	変更内容
	7.6	このコマンドは、リリース 7.6 以前のリリースで導入されました。

次に、ポリシー エラーのデバッグを有効にする例を示します。

```
(Cisco Controller) > debug policy errors enable
```

## debug profiling

クライアントプロファイリングのデバッグを設定するには、**debug profiling** コマンドを使用します。

**debug profiling** {enable | disable}

### 構文の説明

**enable** クライアントプロファイリング (HTTP および DHCP プロファイリング) のデバッグを有効にします。

**disable** クライアントプロファイリング (HTTP および DHCP プロファイリング) のデバッグを無効にします。

### コマンド デフォルト

ディセーブル

### コマンド履歴

リリース	変更内容
7.6	このコマンドは、リリース 7.6 以前のリリースで導入されました。

### コマンド履歴

リリース	変更内容
8.3	このコマンドが導入されました。

次に、クライアントプロファイリングのデバッグを有効にする例を示します。

```
(Cisco Controller) >debug profiling enable
```